



海外生活 エッセー

北京事務所

日中の育児に関する考え方の違いとは

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 船井 英史 (鹿児島県派遣)

わが家は4歳と2歳の子どもを含む家族4人で北京で生活しています。日本のマスコミ報道ぶりから「北京で子育てするのは大変そう」と思う方が多いかと思いますが、今回は自分の目から見た日中両国の育児に関する考え方の違いなどについてお伝えしたいと思います。

→ 子どもファースト

日本人からすると、中国人同士の会話は荒々しく聞こえますし、公共精神も欠けていると思われがちですが、子どもに対してはとにかく寛容の一言です。バスや地下鉄などに子連れで乗ると半ば強制的に席を譲ってくれますし、レストランでどれだけ騒ごうが走り回ろうが、周りは気にも止めません。むしろ店員から「子どもを見ておくから先に食べて」と言われたことも。冬に子どもが短い靴下で肌が見えていると、知らないおばさんから「長い靴下を履かせないとダメじゃない!」と怒られます。空気の悪い日に子どものマスクがずれていると、通りすがりの大学生が丁寧に直してくれます。子どもと一緒にいて肩身が狭いと感じたことは一度もありません。

大人の世界は熾烈な生存競争に晒されている中国ですが、子どもだけは別格。そこら中におせっかいの目が行き届いている感じです。中国語で子ども・赤ちゃんのことは「宝贝 (バオベイ)」。英語で「honey (ハニー)」に相当する言葉のようですが、まさに宝物のように周囲から大事にされる存在ということになります。

→ 育児は祖父母の責任!?

もう一つの大きな特徴として、日本よりもずっと「家族」の繋がりが深い中国では、一般的に出産後はおじいちゃん・おばあちゃんが子育てを担当します。祖父母が夫婦の家に来る場合と、祖父母の家に夫婦が同居する場合がありますが、北京など大都市では祖父母が来るパターン

が多いようです。また共働きが一般的な中国では、女性はほとんどが出産後半年以内に仕事に復帰します。育児も家事も全て祖父母に



ある小学校の登校風景

お任せして、週末のみ自宅に帰るというケースも珍しくありません。中には子どもを祖父母に預けたまま、夫婦で旅行を楽しむという人たちも増えているとか。私の子どもが通う日系幼稚園にも3割ほど中国人の子がいますが、朝夕の送迎で見かけるのはほとんどがおじいちゃんです。

最近「子どもは自分で育てたい」「親と住みたくない」という若い世代も増えているようですが、やはり日々の仕事や育児の大変さを考えると祖父母との同居が圧倒的多数のようです。伝統的な中国人にとって孫の世話は義務であり、また老後の楽しみでもあるのでしょうか。もちろん日本でもそうだと思いますが、四六時中、孫の世話に加えて子ども夫婦の世話までしている中国のシニア世代のバイタリティには本当に頭が下がる思いです。

→ 中国ではイクメンが普通

またご存知の方もいるかと思いますが、中国の男性はとにかく女性に優しい。それは結婚してからも同じで、私の友人にも育児に限らず、炊事、洗濯、掃除を完璧にこなすスーパーイクメンがいます。これは女性が強いということもありますが、育児や家事は女性(母親)だけが行うものではなく、家族や周りの人間が支え合っているものだという意識がとても強いからだだと思います。

私は少し家事を手伝ったくらいで、すぐ妻に得意げにしていますが、こちらではごく「当たり前」。少子化が叫ばれて久しい日本ですが、このような中国式の育児の考え方を見習う必要もあるかも知れません。